

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 **日本防火協会**
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

モデル少年消防クラブ活動報告会

少年消防クラブ活性化推進会議(委員長・秋本敏文へ日本消防協会会長・日本防火協会会長)では、去る2月10日(日)、11日(月)の2日間にわたり、全国88のモデル少年消防クラブの指導者を対象とした「モデル少年消防クラブ活動報告会」を東京都内で開催しましたので、その概要を紹介します。

1日目

秋本敏文委員長の主催者挨拶



4年前に、ヨーロッパの少年消防オリンピックに日本から初めて少年消防クラブに参加していただきました。大変大きなインパクトがあったと思います。この刺激のもとに、モデル少年消防クラブの仕組みをつくり、重点的に情報提供や応援を行うことにしました。そしてそこで得られた経験を日本全国に押し広げていくということにしました。それから3年たちました。少年消防クラブは、昭和25年の国の通知から始めて60年以上、現在のクラブのメンバーは40万人以上で、消防団員数の半分に近いという大変な数です。

これからは、モデルクラブでの経験を生かし、また明らかになった問題をきちんと受け止め、それぞれ、できることはやっていかなければなりません。国や地方公共団体にも考えてもらいたいと思いますし、消防関係者にも応援してもらいたいと思います。

去年のこの会議では、東日本大震災の被災地の子供達の話聞き、いかに子供達に勉強してもらうことが大事か、勉強した子供達がかつていことを実感させられました。そして、大きな地震発生時の切迫性があちこちで言われていますが、そういうときのことを考えますと、地域の総合的な防災力をどう充実するかということが、本当に大事だと思います。

そういう中で、子供達に勉強してもらおうとか、訓練してもらおうというのは、

将来、一般社会の中にそのような勉強をした人たちがたくさんいるということになります。これが大きな力になると思いますし、人間形成としてもそのような経験を持つことは大きな意味があると思います。この3年間モデルクラブで皆さん方にやっていただいたことを、どうやってもっと広げていくかということも、私達はやっていかなければならないと思います。

去年8月は岩手で、東京から北の子供達1000人ほどに集まっていたので、ヨーロッパの子供達がやっているのと同じようなことをやっていただきました。

総務省消防庁山口英樹防災課長の来賓挨拶



少年消防クラブ交流会を、昨年8月、岩手県で日本消防協会、日本防火協会、それから岩手県の皆さんにご協力をいただき開催しました。平成25年度は、できれば西のほうで開催できないかということを考えております。さらにこれを発展できればとも考えております。

それから、日本損害保険協会が開催している「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」ですが、昨年から今年にかけて2、000以上のマップの応募があったという事で、いずれも傑作で非常に良い取組だなと感じました。今年、防災担当大臣賞を受賞されたのが、東京都の玉川消防少年団、それから消防庁長官賞が大分県の高瀬少年消防クラブでした。全国の少年消防クラブの方々にも大変熱心に取り組んでいただきました。



また、阪神・淡路大震災を契機として消防庁などが設けた「防災まちづくり大賞」では、今年は、宮城県南三陸町の歌津中学校の少年消防クラブの取組が消防庁長官賞を受賞されました。また福島県三春町の沢石中学校と消防団の取組が、住宅防火の観点から日本防火・危機管理促進協会理事長賞を受賞されました。それ以外にも中学校、高校といった学校の関係の取組が多く受賞されました。

「防災まちづくり大賞」や、内閣府が中心に行っている「防災教育チャレンジプラン」、そういったものにどんどん応募いただけるように、子供たちもまた非常に

文部科学省学校健康教育課河村雅之課長補佐の来賓挨拶



文部科学省では、昨年4月に「学校安全の推進に関する計画」という、自然災害、交通安全、そして防犯などを含めた生活安全の三つの領域を十分にやっ

ておく必要があります。また、今年度文部科学省の防災に関する事業として、緊急地震速報を活用した防災訓練とか、ボランティア活動を進めてもらうというような事業。また、

目を輝かせるのかなと思いをしました。「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」、あるいは「ぼうさい甲子園」、いろいろなところでトライしていただくと、大変素晴らしいと思います。

消防庁としては、今年3月に「少年少女消防クラブフレンドシップ」を総務省講堂で開催し、優良な少年消防クラブ及び指導者を表彰することにいたしました。東日本大震災、阪神・淡路大震災、日本は災害の多い国ですが、今後とも文部科学省とも協力しながら、少年消防クラブの取組をさらに進めていければと思います。

達で考えて判断して、率先して行動するという態度がやはり重要なのではないかと、このことを打ち出しております。また、地域の方々と連携して、その子供達が将来その地域の防災の柱となり、要援護者といわれる病気の方とかお老人の方を含めた方々を助ける担い手となる共助なり公助という考えも重要です。これを進めていくべきであるということも閣議決定の中でうたっております。



このクラブの母体となっているのは、太陽わらべ太鼓保存会という和太鼓のチームです。小学校1年生から上は高校3年生まで50名ほどが加入して、小学生チームと中学生以上の2チームに分かれて普段活動をしています。



1 太陽わらべ太鼓少年消防クラブ (北海道北見市)
 発表者 **山内 克也 氏**

(一面から続き)
 次に、活性化推進会議事務局より、昨年実施した「モデル少年消防クラブの実態調査」の結果と昨年8月7日から9日まで岩手県で開

活動報告

催された「少年消防クラブ交流会」の結果の概要を報告しました。
 その後、4つの少年消防クラブの活動報告がありました。

平成22年に消防事務局よ

り、現在の少年消防クラブからさらに発展させた活動を行うモデルクラブの話がありました。年齢、要件ともチームの構成と合致しており、また会の目的とする郷土愛、仲間との結束を固めることなど、地域防災や地域貢献について会員がさらに考えるよき機会と考え、平成22年11月5日に結成しました。北見市においては10年ぶりとなる少年消防クラブの誕生でした。

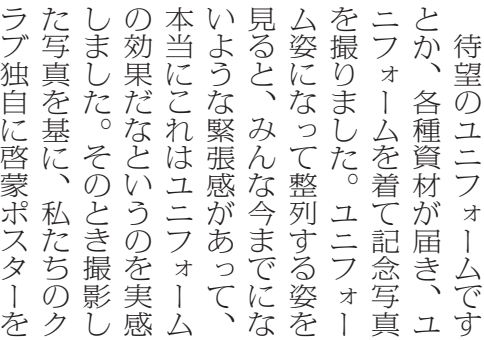


鼓の演奏で出演して、新年クラブとしてのお披露目をさせていただきました。

夏休みの期間中には少年消防クラブが集まって、合同で1泊学習会が実施されています。1泊学習会がどのような内容なのかよく分からないまま、ほかの学校の子どもたちとのふれあいができるのと、また子どもたちがちょうど夏休み期間中に開催されることから、楽しい思い出になるのではないかとということで参加しました。

学習会では消防の職員の方々が指導を担当しており、最初からいきなり「気を付け」「右へならえ」などの規律訓練が始まりました。どの子どももそのような号令で動く経験がなかったので、緊張して取り組んでいました。その後も結案訓練やホースを伸ばしたり巻いたり、担いで走ったりと、結構ハードな訓練でした。最後には防火着を着て、習ったこと全てを試されるり1形式の訓練をやりましたが、かなりきつい1日となったようです。

一応の訓練が終わわり、夕食は、炊き出し訓練として自分たちの食べるおにぎりで、普段の生活では経験できないことばかりでした。



作成して、関係機関に配布し、防火防災意識の高揚に努めました。

毎年7月初頭に消防署、消防団、また消防関係5団体が共催して、防災フェスティバルを開催しています。自分たちの地域は自ら守るといふ地域の防火意識の高揚と、消防力を知ってもらうことを目的に行っているが、毎回この大会には多くの市民の方々も見学に訪れます。だいたい2、000ほどの方が来場されますが、消防団の演習と合わせて、消防関係団体の訓練も行われています。

このときの防災フェスティバルには、全国消防のマスコットキャラクター、消太君とアカネちゃんにもご協力いただけて、会場に花を添えてもらったが、来ていた子どもたちが大変人気があり、あちこちで記念写真に納まっていた。このほかに会場でははしご車の展示や体験試乗、また消火器の消火体験、非常食の試食コーナーとか、アトラクションとして音楽隊の演奏や幼年消防クラブの演奏。私たちの太鼓の演奏も行ない、「見て、聞いて、触

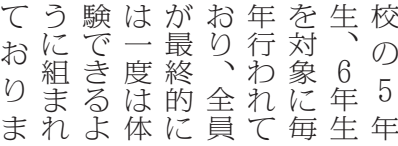


期待のユニフォームですとか、各種資材が届き、ユニフォームを着て記念写真を撮りました。ユニフォーム姿になって整列する姿を見ると、みんな今までになく緊張感があつて、本場にこれはユニフォームの効果だなどというのを実感しました。そのとき撮影した写真を基に、私たちのクラブ独自に啓蒙ポスターを

昨年一年に引き続き、昨年も1泊学習会に参加しましたが、この学習会ではAEDの使用対象が小学校高学年まで引き下げられたこともあり、日本防火協会発行の『少年少女のための入門応急手当』を使用し、救急隊員の指導の下に訓練を受けました。ちなみにこの1泊学習会においては、小学校の5年生、6年生を対象に毎年行われており、全員が最終的には一度は体験できるよりに組まれておりま

私たちがクラブも市民の皆さんの前で小型ポンプ操法の訓練を披露しました。来場者の方々はもとより、消防関係の皆さんからまたくさんのお褒めの言葉を頂戴いたしました。子どもたちもみんな本当に自信が持っていたようでした。

共同事業ですが、12月になると毎年防火餅つきに取組んでいて、その中でパンフレットの配布や火災予防の呼びかけなどの啓蒙活動を行っています。この防火餅つきは防火委員会の主催で、歳末火災特別警戒の協賛行事として行っており、幼年消防クラブ員による鼓笛の演奏や私たちの和太鼓演奏、また餅まきをしたり、歳末火災を少しでも減らそうということをやっています。



が、子どもたちというのは私たちが火災予防を訴えるよりも、ほかの市民の方々に訴える力が本当に絶大なものがありまして、この行事などを通して子どもたちがパンフレットを配ったり、また火災予防の呼びかけを行ったりしたときに、市民の皆さん方は熱心に耳を傾けてくれて、また配布物にも目を通してくれました。

先の大津波のときにも、子どもたちが率先して避難した地域の方々については、多くの方が命を救われたと聞いております。この発達期に入りました子どもたちが、これからはさらに正しい防火、また防災知識を身に付け、そして子どもたちにとっても少年消防クラブ員であるという誇りが持てるような、何か認定資格みたいなものを作ったりしまして取り組むと、もっとも子どもたちも盛んに取り組んでくれるのではないかと考えております。

この2年間さまざまな活動を通して思うことですが

が、子どもたちというのは私たちが火災予防を訴えるよりも、ほかの市民の方々に訴える力が本当に絶大なものがありまして、この行事などを通して子どもたちがパンフレットを配ったり、また火災予防の呼びかけを行ったりしたときに、市民の皆さん方は熱心に耳を傾けてくれて、また配布物にも目を通してくれました。

2 青梅消防少年団 (東京都青梅市)

発表者 **星野 誠二 氏**



平成25年1月1日現在ですが、団員は22名。準指導者、指導者合わせて23名、



合計45名の1隊4班体制で活動を行っています。昭和55年3月に、東京都の中では67番目に発足した少年団で、当時は団員44名、指導者19名の体制でした。
 主な活動内容ですが、月に2回ほどの活動を行い、それぞれ消防に対する訓練、鼓笛隊もやっていますので、その活動に合わせて

が、子どもたちというのは私たちが火災予防を訴えるよりも、ほかの市民の方々に訴える力が本当に絶大なものがありまして、この行事などを通して子どもたちがパンフレットを配ったり、また火災予防の呼びかけを行ったりしたときに、市民の皆さん方は熱心に耳を傾けてくれて、また配布物にも目を通してくれました。

鼓笛の練習等も行っていま
す。また特別救助隊長の指
導により、水難救助訓練等、
山火事の防止ということ
で、御岳山の防火パトロー
ル等も行っていきます。

活動の詳細ですが、まず
4月に入卒団式を行います。
たくさんの方の来賓の方々
がお見えになり、激励を頂
きまして、子どもたちも緊
張の中ではありますが、一
生懸命お話を聞き、立派に
式を終了させることができ
ました。

5月に、市内一斉に美化
活動として、ビューティフ
ル青梅というのがあり、そ
ちらに当少年団も参加し、
町のゴミ拾い等を行って、
美化に協力しています。そ
の活動が終了したら、新入
団員の歓送迎会等も兼ね、
多摩川の河川敷に移動し、
ピザ作りを子どもたちと一
緒に行い、そこで親睦を深
めています。そのピザ作り
は、団長お手製の特製ドラ
ム缶を利用した直径60セン
チのピザを作ることを、毎



年行っています。

このピザの作り方の概要
ですが、ドラム缶を3分割
して、真ん中にピザを入れ
ます。そして下からと上か
ら火を入れ、サンドイッチ
で焼くような形になりま
す。子どもたちは生地作り
から始まり、トッピングま
でを行い、焼きは大人がや
りますが、一生懸命作った
後にみんなで試食をするよ
うな形になっています。

一昨年モデル消防少年団
クラブとしての認定を受け
たことよって、D型ポン
プを導入しました。その使
い方の勉強や、実際に放水
訓練等も行っていきます。ま
た消火器の使用体験等、応
急救助訓練、結索訓練等も
一緒に行っています。その
ほか、消防署の活動拠点で、
隊員たちの資機材や訓練等
の見学、指導を受けての規
律訓練や結索訓練等も行っ
ています。



た緊急的な泳ぎの訓練等を行
っています。後々は学校の
許可が得られればです
が、着衣泳等の訓練もし
たいと思っています。

これも夏休みですが、野
外活動として1泊2日で小
菅のキャンプ場に行き、そ
こで団体活動の勉強や自炊
の厳しさ、もろもろ火の扱
い方等のいろいろな勉強を
します。当然規律訓練、結
索訓練等もあります。夜は、
中学生団員を中心としたナ
イトオリエンテーリング等
もお楽しみの一つとなっ
ています。

東京消防少年団の第九支
部の集まりで、「方面のつど
い」が秋にあり、青梅市と
しては、昨年は初期消火訓
練を披露させてもらい、意
外と評判でした。またその
後に綱引き大会や〇×クイ
ズがあり、綱引きでは今年、
準優勝でした。
秋の火災予防運動の一環
として御岳山へ登り、登山
者等へ防火予防のパンフレ
ットを配ったり、山の中の
パトロールをしています。



団員もはじめはパンフレッ
トを配るのに躊躇していま
います。

3 下田少年消防クラブ (高知県四万十市)

発表者 浅尾 拓氏



市立下田小学校では、以
前から地元消防団に消防、
防災訓練の指導をいただい

したが、登山者から「ご苦
労さま」ありがとう」とい
う言葉を返されると、だん
だん元気になる、パンフレ
ットもあっという間になく
なってしまうました。

当少年団の鼓笛隊です
が、年に3回ぐらいお披露
目する場所があり、1月に
は青梅市の消防団出初め式
の鼓笛パレード。また青梅
マラソンの30キロの前座で
の鼓笛のパレード。それは
600メートル歩きながら
の演奏となります。

春の火災予防運動に合わ
せ、消防署の庁舎公開行事
で、団員加入促進のキャン
ペーンを行っており、小さ
なコンサートとして鼓笛も
披露します。

今後の課題として、子ど
もたちが辞めていく中での
新入団員の加入が少ないこ
とで、非常に団員集めに苦
慮しています。今後は駅頭
でのパンフレットの配布
や、近所への声掛け等い
ろいろ考えていこうと思っ
ています。

たり、避難箇所の巡回など
も共に行っており、防災に
対する意識が強いことか
ら、少年消防クラブの発足
となりました。小学校と消
防団の連携がとでも取れ
ています。
下田少年消防クラブは下
田小学校の高学年で構成さ
れています。この地区は四
万十川の河口に位置し、南

に太平洋を望み、雄大な自
然に囲まれています。その
反面、自然災害などの危険
性も高く、日頃から地域の
防火・防災活動が活発で
す。

全校生徒64名、うち6年
生と5年生がクラブ員とし
て活動しています。発足は
平成23年5月。クラブ員数
は高学年で構成された31名
で、クラブ指導は地元の消
防団である四万十市消防団
下田分団と、消防署が行っ
ています。支給された活動
服にネームを入れました。



こうすることでクラブ員の
活動が一目で分かります。
活動内容です。一つ目は
消防署体験学習です。実際
の公道を消防車で走行する
体験をしました。救急車や
消防車の車内説明や、救急
法では固定する副子を使っ
た応急手当、心肺蘇生法、
真横にロープを張ったロー
プ渡りや、私たちが災害活
動に着的防火服の着用、消
防装備品の点検などを行
いました。



研修で行っていたDIGを
見たことから実施しまし
た。下田地区の危険性につ
いて研究をしました。ここ
でも地域のことに詳しい消
防団の方に協力をいただき
ました。車の通れる広い道
路や緊急車両などが通れな
い細い狭い道などを書き入
れ、その中で次第に子ども
たちから意見や質問なども
飛び交いました。安全な避
難場所をクラブ一員たちで
見直し、クラブ員たちは身
の周りの危険の多さに驚い
ていました。

三つ目の活動は「こども
防災フェス」です。このイ
ベントは当初、私の所属す
る幡多中央消防組合で下田
少年消防クラブや、隣町の
黒潮町というところがあ
りますが、そこも私どもの管
轄であり、そこには今回の
モデルクラブであります伊
田少年消防クラブや、上川
口少年消防クラブの三つの
モデルクラブがあって、そ
のクラブ員を対象としたイ
ベントでしたが、周囲の子
どもたちにも声掛けをし、
防火について学んでいただ
き、また消防団員の指導力
の向上も兼ねて開催しまし
た。

参加団体は当消防組合の
ほか、日本防火協会の協賛
行事の助成を受け、四万十
市、黒潮町、四万十市消防
団、黒潮町消防団や高知県、
高知県消防協会、日本赤十
字社、自衛隊、日本公衆電
話会など、12もの団体の協
賛協力をいただきました。
(4面に続く)

(3面から続く)
参加者は来場者を含め、約700名にも及びました。県の消防協会の担当の方と協力し、チラシを作り、各学校や保育所、大型物販店などに配布し広報しました。

会場では、消防、自衛隊、消防団、日本赤十字、県などのブースを構えています。防災ヘリが、管内が被災した想定で被害状況を空撮し、そのデータを投下、伝達する訓練を行い、子どもたちも一緒に見学しました。

そして防災講演会です。「アメリカの防災教育」今までと違う新しい考え方を学ぼう」というタイトルで、現在は米海軍日本管区司令部消防隊広報官である長谷川さんをお招きし、クラブ員たちはもちろんのこと、訪れた来場者やイベントスタッフも聴講。私たち消防職員が聞いても、「なるほど、そういう考え方も、やり方もあるんだな」と思えるような身振り手振りの教え方に、とても勉強になりました。そしてシートを使って煙に見立てた煙から逃げることや、服に火が付いたら、ストップ、ドロップ、ロール。地面に体をこすりつけて消火する方法など、自分の命は自分で守るために自然に体が動けるようないろいろな知識を、大変楽しく学べた講演になりました。



の高さを体験することや、レスキュー隊体験、ロープ登り、消防団のポンプ車放水訓練、小さな子どもたちは消火器を使った消火方法、教える消防団の方もとても楽しそうにやっております。日本赤十字社はトリアージタグを使った応急救護や、大型救護テントを設営していただき、通信や仮設ベッドの体験もしていただきました。自衛隊は特殊車両乗車体験、またロープの降下の展示、ロープの結び方などを教わりました。

紙パックでお皿も作りました。段ボールで作るトイレなどもやっております。そしてゴミ袋を使ったレインコート。ゴミ袋に新聞紙を詰めた布団。中には段ボールなどで自分の部屋を作った子どもさんもおりました。また段ボールを使った間仕切り。消防団の方が子どもにも親切に教えていただいております。



そして体育館の中では防災のものづくりをしたわけですが、これは四万十市と黒潮町の両消防団で持ち場を行いました。事前講習でも多くの消防団の方が参加していただき、このイベントを迎えることもできました。そしてこのような防災アイテムを作り、ブルーシートで簡易テントを作りました。そして「リットルの

た。三角コーンの中にアルミホイルを張り、太陽光を集めて、太陽炉というものを温める。あいくこの日は天気途中から悪くなり、温めることはできませんでしたが、担当の話では、事前講習では大変ものが温まる、火がなくても温まるということを書いていました。クラブの子どもたちの中にはスタッフの消防団員とも仲良くなり、車を作って遊んでいきましたが、それもありがたかったです。

ライスは600食ほど作っていただきました。炊き出しの試食は四万十市と黒潮町の女性防火クラブの方々に配膳のお手伝いをしていただき、実際来場された方やクラブの子どもたちが自分で作った紙パックのお皿で、カレーの試食をしました。その他の催しとしては、雨体験、土石流、災害3Dシミュレーター、土石流模型実験装置や災害用171伝言ダイヤルといったさまざまな体験イベントを実施しました。運営に当たっては大変苦労しましたが、とても有意義なものとなりました。

そしてこれまで活動していく上で、さまざまな課題点も見えてきました。それは生徒が少なくなっているのでクラブ数の減少や、学校行事ではないのでクラブ員の習い事が重なる、研修日程の調整がとても難しい。指導者が仕事の都合上スケジュールが合わず、指導者の参加が少ない。指導者自体の後継者の育成、学校との連携が継続できる不安といったような問題点もある中、活動目標は立てなければなりません。

活動目標は春、秋の火災予防運動による防火啓発活動や、先ほど紹介した「子ども防災フェス」の継続、コミュニケーション助成事業で配備された資機材の取り扱いや、近隣の老人入所施設と防火避難訓練、これは子どもたちと事前打ち合わせをした中で、子どもたちが

から言ってきた訓練内容です。また野営訓練など計画しております。そして少年消防クラブができたことで、子どもと消防団のつながりができてきました。消防団と地域の関係がより一層密になり、当初消防団員の中でも一部の方しか指導に携わっていませんでしたが、イベントを企画することによって指導する楽しさを実感し、その広がりも見えてきております。発足当時に比べ、子どもの地域活動や防災に対する積極性も生まれてきました。私たち消防もなんらかの架け橋的な存在になってきたのではないかと考えております。

ております。そしてなにより、防災を高知県の文化として根付かせていきたいと思っております。最後になりましたが、少年消防クラブが発足し、この2年、クラブ員たちは驚くほど地域防災に関して関心を示すようになりました。その気持ちに込めたいので、私たち防災関係者も少年消防クラブと一緒に活動し続け、日頃から顔の見える関係を築くとともに、今後必ず起こるとされている南海地震に備え、自助、共助による防災力の強化を図りたいと思っております。



私たちが住む日田域内では、昭和52年12月に玖珠郡に春日少年消防クラブが結成されていまして、しかし日田市には少年消防クラブは結成されていませんでした。管内人口の70%を占める日田市に是非でも少年消防クラブを結成しなければという思いで、平成22年7月に高瀬小学校並びに育友会の全面的な協力によって、長年結成

ており、防炎を高知県の文化として根付かせていきたいと思っております。最後になりましたが、少年消防クラブが発足し、この2年、クラブ員たちは驚くほど地域防災に関して関心を示すようになりました。その気持ちに込めたいので、私たち防災関係者も少年消防クラブと一緒に活動し続け、日頃から顔の見える関係を築くとともに、今後必ず起こるとされている南海地震に備え、自助、共助による防災力の強化を図りたいと思っております。

4 高瀬少年消防クラブ (大分県日田市)

発表者 森澤 駿 氏

に至らなかった日田市に初めてとなる少年消防クラブが誕生しました。当初は小学4年生の5名でスタートしましたが、子どもたちの精力的な活動により大きな



に認定書を配っています。続きまして、クラブ員構成と活動目標ですが、クラブ員構成は3年前の発足当初から、日田市立高瀬小学校の4年生が5名で高瀬少年消防クラブは始まり、現在平成24年度から4年生8名、5年生5名、6年生7名の総員20名で構成されています。

平成22年7月10日、私が勤めています日田消防署で研修を行いました。規律訓練や闊歩訓練、ロープ投下訓練やロープ渡り。救急訓練として、救急救命士が措置をする内容を、実際には子どもたちはしていませんが、実際何をしているかというのを、見て学んでいます。発煙筒を炊いて濃煙を作って避難する避難体験を実施しています。

平成23年度にも消防署研修をしていきます。23年度には結成からの活動が評価され、少年消防クラブのモデルクラブに選定され、これまで以上の活動が期待される中、23年度の8月1日、2日には消防署で2日間にわたって、放水体験、救急訓練、救助訓練等の研修を受けることにも、エアテントによる避難所体験を実施しました。

活動目標として、高瀬少年消防クラブは指導者が消防職員であり、消防署での指導が容易なことを生かして、ほかでは学び、経験できない基本動作、訓練、消火訓練、救急訓練、救助訓練をより多く子どもたちに伝えるようにしています。また、年2回の火災予防週間には私たち消防職員や消防団員とともに住宅防火キャンペーン、各家庭や防火チラシの配布に参加し、防火啓発活動を担う重要な役割を果たしており、少年消防クラブの目標である少年たちへの明朗活発な気風の育成並びに火災予防の普及、及び一般的防火思想の向上に向け活動が続いています。

救急訓練は、三角巾等を使って、骨折した方に三角巾で固定をしてあげる方式と、心肺蘇生法です。心臓マッサージ、実際に訓練用のAEDがあるので、AEDを用いた訓練等を行います。救助訓練は救助器具です。スプレッダー、カッターと言われている油圧式のものがあります。それを鉄のものを使って切っています。もう器具等を使って行っています。



ロープ渡りですがセーラーという方式でやっています。だいたい男子より女子のほうがうまく渡れています。消防署体験でエアテントによる避難所体験ということ、夜は自炊でカレーを作っています。夜は消防署の裏の車庫で、自分たちでテントを張って、自炊して、寝泊りするという形でやっています。

8月28日に日田市誠和町で自主防災訓練が行われていますが、もし地震等があったときに公民館に一度集まって、地元の方々が指示



をして避難訓練をするのに、少年消防クラブも参加しています。そのときに、スライドを使って地震について発表します。多くの町民からお褒めの言葉をいただいたところです。この発表のスライドは地震時の対応などについてのアニメ化をしたもので、地域住民の方に子どもたちが作って発表しています。

9月11日、松原ダムへ施設見学に行きました。施設における洪水調整の役割、施設の規模並びに歴史を学びました。

このことを踏まえて、23年度防災マップを作成しています。消防署研修、防災訓練参加、ダム見学を踏まえて、「水害から日田を守る」というテーマで防災マップを作りしました。防災マップの結果は佳作で入選を受賞しました。

モデル少年消防クラブに選定されたことに伴って、自治総合センターが行う宝くじの社会貢献事業として、将来の地域防災を担う人材育成に資するための災害避難用テントや発電機、ストーブ兼用煮炊きバーナー等の防災用品の助成を受けました。そして平成24年3月14日にはその防災用品の訓練披露として、災害避難用テントを使用し、災害により頭部と左足を負傷した人への応急手当の訓練を実施しています。

平成24年度の防災マップ作成ですが、テーマは九州北部豪雨です。日田市は今

年度、九州北部豪雨で災害を受けています。私たちの住む大分県日田市は筑後川の上流に位置し、度重なる大きな水害を経験する中、昭和28年の東日本水害以降、水害対策の切り札である多目的ダム2基が建設されました。その後大きな水害を経験することなく過ごしてきましたが、平成24年7月に発生した記録的豪雨である九州北部豪雨により、筑後川本流に流れ込む花月川と言われるところと、吾々路川等の支流の氾濫により膨大な被害に見舞われました。

子どもたちにとって初めて経験したこの水害がなぜ起きたのかということ、被害の大きさ、怖さはどうだったのか。今後、災害を防ぐにはどうすればよいのかを、子どもたちの観点で見いだすことをテーマとして取り組みました。

日田市の豪雨について、7月3日の天気図を見ると、九州北部には梅雨前線がかかっている、西大西洋上に張り出した太平洋高気圧に沿うように南から暖かく湿った空気が流れ込み、

九州北部に記録的豪雨をもたらしたということです。日田市には3日と14日に1時間に100ミリの記録的豪雨で、花月川が氾濫して大きな被害を受けました。

8月22日に日田市の防災研修を行っています。日田消防署で事前学習をして、日田市役所のほうで防災危機管理課に行き、災害対策本部が行う活動について学び、その後被災地である日田市夜明ダム、坂井町、丸山一丁目、大山町、綿打を見て回って、直接被害を受けた方々からお話を聞くことができました。

今回防災研修をして、4、5、6年生、各学年1作品ずつ作成しました。4年生



のテーマが「日田市大水害のときその場所の人たちは」。5年生のテーマは「日田市SOS これまでに経験したことのない大雨」。6年生のテーマは「7・14九州北部豪雨 綿打地区を救った奇跡の言い伝え」ということで、4年生は落選。5年生は佳作入選。6年生は消防庁長官賞という輝かしい賞を受賞しました。

今後の活動目標として、現在、高瀬少年消防クラブは消防職員が指導を全て行っていますが、今後クラブ数が増加すると現状のままではやっていけなくなりそうです。指導員等を含めた体制づくりを考えていかなければならないと思っております。高瀬少年消防クラブが築き上げた活動を維持し、さらなる飛躍をする活動を実施していきたい。現在の6年生が中学生になり、クラブ員としての活動を希望している状況ではあります。運動、文化クラブの活動等があり、現在のところクラブ活動を維持していくことが困難な状況にありま

9月11日、松原ダムへ施設見学に行きました。施設における洪水調整の役割、施設の規模並びに歴史を学びました。

このことを踏まえて、23年度防災マップを作成しています。消防署研修、防災訓練参加、ダム見学を踏まえて、「水害から日田を守る」というテーマで防災マップを作りしました。防災マップの結果は佳作で入選を受賞しました。

モデル少年消防クラブに選定されたことに伴って、自治総合センターが行う宝くじの社会貢献事業として、将来の地域防災を担う人材育成に資するための災害避難用テントや発電機、ストーブ兼用煮炊きバーナー等の防災用品の助成を受けました。そして平成24年3月14日にはその防災用品の訓練披露として、災害避難用テントを使用し、災害により頭部と左足を負傷した人への応急手当の訓練を実施しています。

平成24年度の防災マップ作成ですが、テーマは九州北部豪雨です。日田市は今



今後の活動目標として、現在、高瀬少年消防クラブは消防職員が指導を全て行っていますが、今後クラブ数が増加すると現状のままではやっていけなくなりそうです。指導員等を含めた体制づくりを考えていかなければならないと思っております。高瀬少年消防クラブが築き上げた活動を維持し、さらなる飛躍をする活動を実施していきたい。現在の6年生が中学生になり、クラブ員としての活動を希望している状況ではあります。運動、文化クラブの活動等があり、現在のところクラブ活動を維持していくことが困難な状況にありま

のテーマが「日田市大水害のときその場所の人たちは」。5年生のテーマは「日田市SOS これまでに経験したことのない大雨」。6年生のテーマは「7・14九州北部豪雨 綿打地区を救った奇跡の言い伝え」ということで、4年生は落選。5年生は佳作入選。6年生は消防庁長官賞という輝かしい賞を受賞しました。

今後の活動目標として、現在、高瀬少年消防クラブは消防職員が指導を全て行っていますが、今後クラブ数が増加すると現状のままではやっていけなくなりそうです。指導員等を含めた体制づくりを考えていかなければならないと思っております。高瀬少年消防クラブが築き上げた活動を維持し、さらなる飛躍をする活動を実施していきたい。現在の6年生が中学生になり、クラブ員としての活動を希望している状況ではあります。運動、文化クラブの活動等があり、現在のところクラブ活動を維持していくことが困難な状況にありま

活動報告終了後の質疑応答の模様

「少年消防クラブの実践的な活動を推進する上での現状と今後の課題」について、この大きなテーマの中から少年消防クラブと学校とのかわり方について、話し合いをした。チラシを配ったり入団の勧誘をしたり、入退団式などの行事に校長先生の参加も得られない。それには、団長等が学校に出向き、クラブの活動



を校長先生に会って話をすることが非常に大切ではないか。何とかクラブの活動の理解を得て、子どもたちにもその活動を伝えていただくことも、重要なことではないか。チラシを配布していただいてお願いするだけでなく、きちっと活動などを根気強く話をし、理解を得ていただく。新しい先生がきたら面倒がらず、また一から話をしないかという意見があった。学校の活動は基本的に年度の頭には年間行事が決まってしまいうため、年間行

A班 (発表者 榎 誠氏 岐阜県加茂郡坂祝町 坂祝中学校少年消防クラブ)



2日目
意見交換会

出席者をA、B、C、Dの4班に分けて意見交換会を実施しました。

意見交換会終了後、各班から出された意見や討議内容について発表がなされました。

事が決まる前の12月の終わりや1月の頭ぐらいに、学校に足を運んで話し、年間行事の中に組み込んでいただければ、非常に有効な活動ができるのではないかとこの話もあった。入団の場合親の意見が大事になってくることもあり、小学校のPTA総会で、少年消防クラブの活動、1年間のカリキュラムなどを発表し、勧誘もその場で行うところもある。子どもと学校、保護者と学校がセットになって理解を得て、初めて大きな活動ができていくのではないか。

もう一つの課題は、毎回行事を行うと、指導員が登録は4、6名いても、活動時は1人か2人しか来ていないということ、指導者の確保について話し合いを通すというのは、責任が乗ることである。指導員が乗ることで断る方が非常に多い。活動している中で保護者の方も一緒にいるので、その保護者の方に役割を与えて一緒に協力していただくことをお願いする。そうすると結構うまくいくという事例を発表があった。何とか来ていただいている保護者の方を応援団みたいな形で参加してもらい、一緒に団の運営をしていくようなことをすると、非常にいいのかもしれない。また、多くのクラブでは小学生3年生や4年生の子たちから入っていることが多いので、そういった見守りをす

を校長先生に会って話をすることが非常に大切ではないか。何とかクラブの活動の理解を得て、子どもたちにもその活動を伝えていただくことも、重要なことではないか。チラシを配布していただいてお願いするだけでなく、きちっと活動などを根気強く話をし、理解を得ていただく。新しい先生がきたら面倒がらず、また一から話をしないかという意見があった。学校の活動は基本的に年度の頭には年間行事が決まってしまいうため、年間行

事が決まる前の12月の終わりや1月の頭ぐらいに、学校に足を運んで話し、年間行事の中に組み込んでいただければ、非常に有効な活動ができるのではないかとこの話もあった。入団の場合親の意見が大事になってくることもあり、小学校のPTA総会で、少年消防クラブの活動、1年間のカリキュラムなどを発表し、勧誘もその場で行うところもある。子どもと学校、保護者と学校がセットになって理解を得て、初めて大きな活動ができていくのではないか。

もう一つの課題は、毎回行事を行うと、指導員が登録は4、6名いても、活動時は1人か2人しか来ていないということ、指導者の確保について話し合いを通すというのは、責任が乗ることである。指導員が乗ることで断る方が非常に多い。活動している中で保護者の方も一緒にいるので、その保護者の方に役割を与えて一緒に協力していただくことをお願いする。そうすると結構うまくいくという事例を発表があった。何とか来ていただいている保護者の方を応援団みたいな形で参加してもらい、一緒に団の運営をしていくようなことをすると、非常にいいのかもしれない。また、多くのクラブでは小学生3年生や4年生の子たちから入っていることが多いので、そういった見守りをす

(5面から続き)
る大人の人も必要ではないか。

A班の中に、小学校の頃少年消防クラブに入り、そのまま引き続き今も指導者で活動されている方がいます。今も続けている理由は、ただ単に楽しいからという率直な感想を言われた。子どもが楽しいと思っ



B班 (発表者 江口正弘氏 長崎県香岐市 山崎少年消防クラブ)

B班では、まず、「クラブ員の確保について」、意見を交換した。少年消防クラブの活動そのものが世間にはPRできていないのではなか。それをもっと大々的にPRし、どこに理解を求めたいか、親なのか、世間なのか、行政なのか。この三つを三位一体にして、もっとPRし、地域や市からのメリット等も何か受けることはな

からないという子供達が多いが、その中で誉めてあげることが非常に大切だと思う。学校の校長先生でも理解のあるところは、全校集会などで少年消防団の活動を誉めてくれ、そうすると子供達もやる気が出て、入っていない子供達も、「じゃあ、消防団に入ろうか」と思えてくるという話もあつたので、他の子供達の前にいいところを見つけて消防団の子供達を誉めてやって

まどめた。 続いて、「クラブ員の興味、関心、参加意欲を高めるための取り組みの現状と課題」について、キャンプ等を行ったり、体験、見学、めったにできないことを子どもたちにさせる。そして興味を持たせることは、大人の役目ではないか。そして少ずつ防災に対しての意識を子どもの中から備えさせていき、小さい子ど

も、大きい子ども、それぞれが協力し合って、ものを言うことをきちんと伝えていかなくてはいい。それを教えるのが指導者だと思ふ。どのようにしていいか。どのようなことを考えるのか、子どもはついてくるのか、ということも皆さんと共に考えて実践していければ、もっといいクラブになると思う。



C班 (発表者 藤川一俊氏 福岡県北九州市 下曾根少年消防クラブ)

C班では「少年消防クラブの興味、関心、参加意欲を高める取り組みとその現状と課題」と「消防本部、消防団との連携協力」という2点をテーマに挙げて、話し合いをしました。

たということが、大人でも子どもでも分かると思う。大人はそれを吸収して、理解して、納得することができると思うが、子どもにはそれを噛み砕く心はまだ持っていない。だから、子どもの心のケアも考えた上で、被災地の現場を見るべきではないだろうか。予算的にも大変厳しいと思う。近くのところであればすぐに行けるかもしれないが、それなりの費用をどこから求めているか、ということも、実際にいくとすこ

なりました。 それから、消防クラブによって景品を与えたり、中学生が作った独自のかるたを小学生と共に学校を通してかたる大会を行う。そして小中の連携を図りながら子どもたちの防火意識等を育てたり、クラブの子どもの意欲を高めている。2番目の「消防本部と消防団との連携のあり方」ということでは、消防団と消防署員の差が分かっていない一般の人たちの知識をもう少し高めていく必要もあるのではないかと。それから消防団と消防署員のかかわりはあるが、消防団の方々と子どものかかわりは少ないのではないかと。これが話題に上りました。



D班 (発表者 池本章氏 北海道札幌市伏古本町ひまわり少年消防クラブ)

D班では「クラブ員の興味、関心、参加意欲を高めるための取り組みの現状と課題」、及び「クラブ員の確保について」について、議論しました。

ろくか。そういう実践の場では、こういう消防クラブで子どもたちが実際に大人とかかわりながら、命と命のふれあいを学んでいく場になる。私も指導者が実際に子どもたちに指導することは、学校で学んだことをさらに自分たちの地域で力をつけていく基になるのではないかと。ということで、私も頑張っているかないといけないということを確認し合いました。

の見学や、はしご車に乗せるなどが挙げられておりました。あとは基本的な普段の活動のほかに、プラスチックやフェルトとしてキャンプやテント生活を体験に行う。またクリスマス会でのキーキ作りなど。また実際に消防署に泊まって、署員が動いてることを実際に近くで見るとい体験をさせることをしていくところもありました。

ツシユやチラシを配布する。駅など公共の場で、そういうのを配布しているところもありました。

あと、学校との関係で強く印象に残ったのは、入卒団式の際に地域の校長先生に来ていただき、少年消防クラブの意識づけをしてもらうことは、とてもいいことだと感じました。また学校のPTA役員の方が入ると、人数が増えるといった意見も聞きました。そのほか地域によっては組織がバラバラなので、学校単位でクラブがあって、特定の

日本防火協会吉田哲理事長からの閉会挨拶



学年になると全員加入しているのではないところもあり、また制服姿にあって、将来なれるのだという気持ちで入りたくなくなる気持ちは起るといって、小学校に拒否されているところもあるという話を聞きました。ですから、学校に少年消防クラブのことを理解してもらうことや、かわっていただくことが大事かもしれないと思います。

皆様には年度末を控えて大変お忙しい中、モデル少年消防クラブ活動報告会に出席していただきまして、2日間にわたって終始、熱心かつ積極的に参加していただき、ありがとうございます。大変中身の濃い充実した報告会となりました。皆様にはどうかこの成果を持ち帰って、それぞれの少年消防クラブの活動の活性化に役立てていただきたいと思いますし、さらにモ

活動の状況や効果を把握するために、実態調査を行いました。皆様からの回答を見ますと、大変の熱心な活動の様子がうかがわれましましたし、今後の少年消防クラブの育成について、実践的な活動を推進するという観点から進め

ていくことについて大きな手応えがあったと感じています。

少年消防クラブの交流会につきましては、昨年の研修会において多くの指導者の皆様方からそのような交流会を開催してはどうかというご意見を頂きました。昨日もDVDでご紹介したように、昨年8月に消防庁が主催し、日本防火協会や日本消防協会、岩手県の皆様方などの協力の下で、東

日本においてヨーロッパ少年消防オリンピックを参考にした我が国の初めての試みという形で実施することができました。平成25年度は、昨年と同じような形で、今度は西日本を中心とした交流会を開催する方向で検討されています。西日本のクラブの皆様にはぜひご参加、ご協力をお願いします。このような取り組みを通じて、将来的には全国的な交流会に発展できるように取り組んでいきたいと考えています。

皆様のご活躍と、少年消防クラブのますますの発展を願って、閉会のご挨拶とします。



少年消防クラブの活動

消防出初式に初参加

軍川少年消防クラブ

北海道

平成25年1月7日(月)に開催された南渡島消防事務組合七飯(ななえ)消防出初式に、軍川少年消防クラブが初めて参加しました。当クラブは、少年少女期に防災に関することを学びながら、規律ある明るい少年の育成、また将来の地域防災リーダーの育成を目的として、平成24年4月に発足しました。

総合防災訓練に参加

日野消防少年団

東京都

平成24年10月28日(日)午前8時00分、多摩地区にマグニチュード7.4の立川断層帯地震が発生し、日野市内では震度7及び6強の揺れが起こり、車両の衝突事故及び家屋倒壊等により、多数の要救助者が発生したとの想定で訓練が行われました。

小雨が降る中、日野消防



消防団出初式で救急演技披露

西東京消防少年団

東京都

平成25年1月13日(日)、西東京消防少年団(団長 小林孝一)は、新年最初の活動として西東京市消防団出



初式において救急技術の演技を披露しました。想定内容は、歩行者と乗用車の交通事故でけが人が3名発生したということ。少年団員が手分けをして119番通報や心肺蘇生とAEDによる電気ショック、応急担架を作成して救急隊に引き継ぐまでの一連の動きを行いました。大勢の消防団員や一般市民の方が見守る中、団員達は物怖じせず、堂々と演技を披露しました。体の小さな小学生でも訓練すれば、これだけできるようになるという事をアピールすることができました。

団員達も「最初は緊張したけど、うまくできて良かった。」とほっとした表情をしていました。今年も1年間、様々な活動を通じて団員達が地域防災の担い手として立派に成長してくれることを期待します。

少年団は、地震により倒壊した家屋から発生した火災に対し、災害時支援ボランティア・防火女性の会と協力しバケツリレーによる消火活動を実施しました。また、中学生団員と小学生上級学年団員は、D級ポンプによる消火活動も行い大活躍しました。見学していた方からは、子供たちだけでホースを延ばしている姿を見て、頼もしさを感じたとお褒めの言葉をいただきました。最後に、消防隊、消防団、災害時支援ボランティア、消防少年団で一斉放水を実施して日野市総合防災訓練を終了しました。



京都府

さらなる絆を深めたサマーキャンプ
舞鶴市西少年消防クラブ

当クラブが活動している舞鶴市は、人口約87、000人で京都府の北部に位置しており、日本海に面し山に囲まれた自然豊かな市です。西舞鶴地区の小学5、6年生が入部し活動を行っています。昭和60年発足以来1、234名(平成23年度現在)のクラブ員が活動してきました。年間

のクラブ活動は約10回程度で、少年期より防火防災に関する知識を身につけるとともに、クラブ活動を通じて社会の一員であることを知り、思いやりのある心のある子供として成長することを目的に活動しています。平成24年度のクラブ員は22名が入部し、消防団の協力を得て11名の育成委員と西消防署担当職員で指導しており、今回は、7月の活動で実施しましたサマー



- (1) 舞鶴市西少年消防クラブ 結成 昭和60年10月1日
- (2) 表 彰
 - ・ 全国少年消防クラブ運営指導協議会長表彰
 - 1回目 平成10年3月26日
 - 2回目 平成16年3月26日
 - ・ 京都府知事表彰 平成15年11月16日

- (3) 修了者数1、234名(結成から平成23年度まで)
- (4) 平成24年度クラブ員入部者数22名
- (5) 育成委員11名(消防団から選出)
- (6) 年間行事10回程度(月1回程度の土、日曜日)

キャンプを紹介させていた

川の水を汲みジェットシューターでの消火訓練や心肺蘇生法など班毎にラリー形式で実施する救急訓練、マツチ等を使用しない火起こしを体験、防災物品(カーテン)に着火し、防災と非

防火の違いを学習し、水消火器による初期消火訓練などの研修を行いました。また、クラブ員が慣れない口

で悪戦苦闘しながらも結果訓練を行い、その成果としてクラブ員全員のロー

プ結果で「BFC」の文字を作成しました。

クラブ員全員で作った夕食のカレー、キャンプファイヤー、旧校舎を使用した

肝試しなど、歓声や悲鳴などが聞こえる楽しい夜を過ごせました。

2日目には地元の野菜栽培者の指導により、京野菜

で有名な地元野菜の「万願寺甘とう」の野菜収穫体験

をさせていただきました。今回の研修を通して、火災予防に関する知識や技術が身につく、また、

クラブ員相互の絆を深めることができるなど、非常に良い活動ができました。

宝くじは、 地方自治体の公共事業等に 幅広く使われています。

ワクワク、
ドキドキ。

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

